

Ⅱ 人工林再生

＜主要施策の取組状況＞

1 地域特性に応じた適切な森林整備の推進

- ・公益的機能を重視した混交林等への転換を目標として、水源林整備事業や保安林改良事業等により、間伐等の人工林整備を 382ha 実施した。また、市町村への補助事業（地域水源林整備事業）により、間伐等の人工林整備を促進した（78ha）。林内の照度改善により混交林化が促進され、公益的機能の向上に寄与した。
- ・森林資源の活用による持続可能な人工林の整備として、水源林整備事業や県営林造林事業等により、間伐等の人工林整備を 134ha 実施した。また、市町村等への補助事業により間伐等の人工林整備を促進した（644ha）。持続可能な人工林整備が促進されるとともに、間伐材が有効利用された。

2 森林整備とシカ保護管理の連携

- ・水源林整備などの森林整備と情報共有を行い、水源林整備地周辺を中心に管理捕獲を実施し、森林整備と連携したシカの管理捕獲を行った。また、平成 26 年度には管理捕獲の際の利用へ配慮した作業径路の配置や、モノレールの配置を行った。（Vシカ等野生動物の保護管理再掲）

3 県産木材の有効活用の促進と基盤の整備

- ・県有林において間伐材の搬出（208 m³）し、県産木材活用を促進した。また、補助事業により、9,101 m³の間伐材を搬出した。
- ・基盤整備として、県営林道 19 路線の改良工事を実施するとともに、水源林の補助事業として作業路 17 路線、計 13,925m 整備した。

4 森林モニタリングの実施

- ・対照流域法による調査を実施した。平成 25 年度に引き続き、大洞沢、貝沢、ヌタノ沢、フチヂリ沢の 4 カ所の試験流域において対照流域法による水・土砂流出に関するモニタリングを継続し、大洞沢（東丹沢）、ヌタノ沢（西丹沢）では、下層植生回復による森林の公益的機能（特に水源かん養機能）の改善の検証を行った。また、貝沢（小仏山地）、フチヂリ沢（箱根外輪山）では、大洞沢やヌタノ沢の比較対照として、地域ごとの流出特性を把握するとともに、適切な水源林管理による人工林の水源かん養機能保全の検証を行った。
- ・東丹沢の大洞沢、西丹沢のヌタノ沢では、植生保護柵によってシカを排除した実施流域とシカを排除しない対照流域をペアで設けて、シカの対策による下層植生回復効果と水・土砂流出への効果の関係を調査した。大洞沢では平成 26 年時点で裸地となっている溪流沿いの下層植生回復には至っておらず水や土砂流出にも変化は現れていない。また、同様に平成 26 年 4 月に片方の流域を植生保護柵で囲んだ西丹沢ヌタノ沢でも、下層植生状態に顕著な違いはみられていない。
- ・モニタリングを通して、現地のデータ蓄積が進み、それぞれの試験流域の流出特性把握が進捗した。

- ・水源の森林づくり事業で施業した箇所のモニタリング地点で、植生と進入広葉樹、光環境、土壌侵食深を調査した。シカの生息状況を考慮して試験地を3区分（丹沢、小仏・箱根、対照区（丹沢の植生保護柵内））して、2時点の下層植生の現存量を比較すると、人工林の現存量は丹沢と小仏・箱根でほぼ同程度であり、丹沢の人工林ではオオバノイノモトソウやマツカゼソウといったシカの不着好性植物が優占していた。一方、広葉樹林の現存量は、丹沢と箱根（小仏には広葉樹林の試験区無し）で大きく異なり、丹沢では箱根の11%の現存量であった。また、丹沢の広葉樹林の現存量は丹沢の人工林の15%程度であった。丹沢において、人工林と広葉樹林で間伐後の下層植生の状況が異なったのは、丹沢における人工林と広葉樹林の立地環境の違いによると考えられる。

○森林整備実施状況（平成26年度）

公益的機能を重視した混交林等への転換	森林資源の活用による持続可能な人工林の整備
・間伐等人工林整備等 382 ha (水源林整備事業・保安林改良事業等) ・補助事業による間伐等人工林整備 78 ha (地域水源林整備事業)	・間伐等人工林整備 134 ha (水源林整備事業・県営林造林事業・旧社営林整備事業等) ・補助事業による間伐等人工林整備 644 ha (造林補助事業・地域水源林整備等)

○県産木材の搬出状況（平成26年度）

県有林からの搬出	補助事業による搬出
134 m ³	7,935 m ³

○基盤整備の実施状況（平成26年度）

県営林道改良工事	水源林作業路・作業道設置
17 路線	13,925 m

○森林モニタリング実施状況（平成26年度）

水源涵養機能調査（対照流域法）	水源林定点調査
・大洞沢、貝沢、ヌタノ沢：事後モニタリング ・フチヂリ沢：事前モニタリング	・施業箇所の定点で、植生、光環境、土壌侵食深を調査。

対照流域における植生調査の状況（ヌタノ沢）



対照流域における気象観測装置のメンテナンス状況（大洞沢）



森林整備実施状況（混交林・清川村煤ヶ谷地内）



オオバノイノモトソウ（左）とマツカゼソウ（右）



○人工林再生に関する事業の実施場所（位置情報のある事業のみ掲載）

